

平成22年 6月 20日現在

研究種目： 若手研究(B)
 研究期間： 2008～2009
 課題番号： 20720240
 研究課題名(和文) 紛争と国民和解の人類学的研究

研究課題名(英文) An Anthropological Study of Conflicts and Reconciliation

研究代表者

福武 慎太郎 (FUKUTAKE SHINTARO)
 上智大学・外国語学部・准教授
 研究者番号： 80439330

研究成果の概要(和文)：東ティモールの村落社会における住民主体の和解の試みに関する聞き取り調査、そして文献資料調査から、ティモール島における紛争と人々の移動の歴史的背景を明らかにした。これによって、当該社会の人々にとっての紛争と和解の理解と、国際的な人道支援の文脈で理解されている紛争と和解の理解にずれがあることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Based on the field research in rural areas in East Timor, this study found the historical background of conflicts and the move of people in Timor island. By this study I found that there is the gap of understandings of the conflict and reconciliation in East Timor between the international humanitarian aid workers and the local people.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,240,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：文化人類学

1. 研究開始当初の背景

数百年にわたる植民地支配を経て、2002年、東ティモール民主共和国は21世紀最初の独立国として誕生した。しかし、独立に先立つ騒乱の結果、多くの死者、そして難民が発生した。これにより独立後、国際的な緊急人道支援、そして過去の人権侵害の真相究明、

そして紛争後の和解が国家的重要課題となった。

2. 研究の目的

過去の人権侵害と和解の問題が、「東ティモール人」を主体として議論されるなか、本研究は村落社会における聞き取り調査をも

とに、紛争とその主体の多様性を明らかにする。この人類学的手法による紛争と和解の研究により、人道支援の文脈で理解される画一的な紛争と和解の理解を、地域社会の視点から批判的に検討することを目的とした。

3. 研究の方法

東ティモール民主共和国内の複数地域における紛争と和解に関する聞き取り調査を中心的な研究方法とした。過去の人権侵害の真相究明と住民主体の和解を促進する「東ティモール受容真実和解委員会」のレポートの分析やスタッフへのインタビュー、さらに文献資料調査、および国内の研究会における意見交換によって考察を深める場として活用した。

4. 研究成果

(1) これまでのインドネシアと東ティモールの国境周辺社会を中心とした紛争後の和解プロセスに関する調査の成果に、さらに同地域以外の東ティモール内陸の村落社会における複数の住民主体の和解の試みに関するデータを加え、学会および研究会における報告を通じて意見交換をおこない考察を深めた。

(2) 京都大学で平成 20 年 6 月 1 日におこなわれた日本文化人類学会研究大会の分科会「平和の人類学」では、「国民和解にみる儀礼の流用：東ティモール受容真実和解委員会の活動を事例に」と題し、東ティモールの村落社会でおこなわれた複数の和解プロジェクトに関する調査成果の報告をおこなった。

(3) また東ティモールにおける国民和解をめぐる世代や立場による理解の相違について、国民意識の相違と関連づけた考察をおこない、同年 8 月に「国民和解を想像する：東ティモールにおける過去の人権侵害の裁きをめぐる二つのローカリティ」と題し、論文を発表した。

(4) 同年 11 月より国立民族学博物館共同研究「平和・紛争・暴力の人類学的研究の可能性」（研究代表者：小田博志）に館外研究員として参加、平成 21 年 2 月 28 日におこなわれた第 3 回研究会では「紛争後の東ティモールにおける平和構築と和解の概念について」と題し、制度的な平和構築プロセス、国民和解プロセスについて人類学の視点からどのような議論が可能か、意見交換をおこなった。同年 3 月 10 日には「紛争と和解の民族誌にむけて—ティモール南テトゥン社会の事例を中心に」と題し、大阪大学のグローバル COE プログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」「コンフリクトの人文」セミナーで報告した。

(5) 平成 21 年度はこれまでのインドネシアの東ティモールの国境周辺社会を中心とした紛争後の和解のプロセスに関する研究に加え、当該地域の歴史的な文脈—とくにオランダ、ポルトガル両植民地権力への包摂過程に注目し、文献調査および現地における聞き取り調査をおこなった。

(6) 平成20年度に引き続き、国立民族学博物館共同研究「平和・紛争・暴力の人類学的研究の可能性」(研究代表者：小田博志)に館外研究員として参加、民族および宗教紛争後の和解の問題についての意見交換をおこなった。同年6月20日には大阪大学グローバルCOEコンフリクトの人文国際研究教育拠点研究プロジェクト「オルタナティブ・ジャスティスの世界的動向に関する共同研究」の招聘により、「紛争調停における儀礼の役割—東ティモール村落社会における和解実践を事例として」と題し講演をおこなった。

(7) 8月25日から9月6日にかけて13日間の日程で、東ティモール民主共和国コバリマ県スアイで補足調査を実施、住民投票10周年をむかえた東ティモールの現在に関する聞き取り調査をおこなった。1月24日には館外研究員として参加する国立民族学博物館共同研究「キリスト教文明とナショナリズム—人類学的研究」(研究代表者：杉本良男)において、「東ティモールのカトリック教会とナショナリズム」と題し、さらに2月13日に同博物館共同研究「オセアニアにおける独立期以降の<紛争>に関する比較民族誌的研究」(研究代表者：丹羽典生)において、「国民和解を想像する—東ティモールの紛争はどのように理解されたか」と題し、本年度の研究成果を報告した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計4件)

①福武慎太郎「紛争調停における儀礼の役割—東ティモール村落社会における和解実践を事例として」大阪大学グローバル COE コンフリクトの人文国際研究教育拠点研究プロジェクト「オルタナティブ・ジャスティスの世界的動向に関する共同研究」公開研究会(第7回研究会)、2010年6月20日、大阪大学

②福武慎太郎「紛争と和解の民族誌にむけて：「ティモール南テトゥン社会の事例を中心に」グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」「コンフリクトの人文」セミナー 第29回「諸価値のコンフリクトと妥協に関する民族誌的研究」プロジェクト・ワークショップ グローバルな価値とローカルな実践—紛争・調停・共存の民族誌—」2009年3月10日、大阪大学大学院人間科学研究科(吹田キャンパス) 東館2階 ユメンスホール

③福武慎太郎「紛争後の東ティモールにおける平和構築と和解の概念について」国立民族学博物館共同研究「平和・紛争・暴力に関する人類学的研究の可能性」代表者：小田博志)、2009年2月28日、国立民族学博物館。

④福武慎太郎「国民和解にみる儀礼の流用—東ティモール受容信実和解委員会の活動を事例に」日本文化人類学会、2008年6月1日、於京都大学。

〔図書〕(計1件)

① 福武慎太郎「国民和解を想像する—東ティモールにおける過去の人権侵害の裁きをめぐる二つのローカリティ」幡谷則子他編『貧困・開発・紛争-グローバル/ローカルの相互作用』91-117頁、2008年。ぎょうせい

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

福武慎太郎 (FUKUTAKE SHINTARO)

上智大学・外国語学部・准教授

研究者番号: 80439330

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号:

6. 研究組織

(1)研究代表者